

## 役員所感

筆頭副理事長 飛田 剛一

公益法人格を取得し手さぐりの中ではあるが無事1年が経過し、更に歴史あるこの上越青年会議所が50周年といった大変大きな節目を来年にひかえた今年度、メンバー一人ひとりが自分に与えられた役割を改めて理解し、そのことへの感謝の念を忘れずに責任を果たす。この地域に本当に必要とされることとは何かを常に意識しながら、肯定的で且つ発展的な意見をぶつけ合える、活力に満ち溢れた組織の再構築が必須ではないかと考えます。

我々が日々掲げるクリードの中に「世界の貴重な遺産とは人間性、人間の心の中にこそ求められる」という一節があります。これは貴重な遺産が人間そのものではなく「人間性」つまり心や性格であると考えます。それぞれ個々には心があり性格が違うからこそ、世界の貴重な遺産は人間ではなく「人間性」が貴重なのではないのでしょうか。多くの現役メンバーが持つ個々の素晴らしい人間性を最大限に引き出し、更なる自己の成長へつなげようと考えます。また社会と同様に青年会議所においても「役が人を育てる」と言われます、私もその年度に経験し、それぞれに新たな気づき物事の考え方・伝え方など多くを学び、それが自分自身の人生の中で大きな糧となり、今の自分があることに感謝しております。だからこそ青年会議所に入会し得ることのできた経験や誇りと自信を、これからの多くのメンバーに伝えていかなければなりません。青年会議所は待っているだけでは何も与えてはくれません、自ら率先して行動して行くことによって経験や誇りと自信が養われ、結果、地域や社会から必要とされる青年会議所運動への原動力につながると確信いたします。

様々な境遇で様々な立場や環境の中、集う同士が心を一つに人生最善の仕事に臨み、本年度は保坂理事長の下、自信と誇りを胸に筆頭副理事長として、また一人の経済人としても自分自身の責任を自覚し、真の豊かなまち上越となることを確信し邁進してまいります。